

問1 九州地方の火山に関連する地理的事象とその影響について、背景や理由を含めた記述として最も適切なものはどれですか。

(2018年 千葉県公立入試 類似)

1. 火山地帯では地下深くに高温の蒸気や熱水が存在するため、これを取り出してタービンを回す発電方式が、再生可能エネルギーの一つとして活用されている。
2. 活火山周辺では噴火による降灰被害を防ぐため、広大なカルデラ内は居住や農業が厳しく制限され、主に無人の発電施設のみが設置されている。
3. シラス台地は養分を豊富に含んだ火山灰で構成されているため、肥料を与えずとも高い収穫量が得られることから、九州最大の野菜供給地となっている。
4. 火山地帯は地盤が非常に強固であるため、大規模な工業団地や製鉄所の建設に適しており、北九州工業地帯の発展を支える要因となった。

問2 宮崎県の農業統計において、2020年の品目別生産量で全国1位となっている作物はどれですか。この作物は宮崎平野を中心に盛んに栽培されています。

(2023年 福島県公立入試 類似)

1. きゅうり
2. さつまいも
3. てんさい
4. ねぎ

問3 沖縄県の県庁所在地である那覇市の歴史的・地理的背景に関する説明として、最も適切なものを選択肢から選びなさい。

(2024年 大阪公立入試 類似)

1. かつての琉球王国の政治拠点であった首里に近く、古くから港町として発展した歴史を持つ。
2. 明治時代の廃藩置県において、鹿児島県の出先機関が置かれたことをきっかけに県庁所在地となった。
3. 沖縄本島のちょうど中央部に位置し、米軍基地を返還した跡地に計画的に作られた行政都市である。
4. 九州地方の各県との物理的な距離が最も近いこと、古くから九州の行政区画の一部として発展した。

問4 沖縄県の伝統的な家屋において、家の周囲を石垣で囲んだり、フクギなどの防風林を植えたりする工夫が見られる主な理由として、最も適切な説明はどれですか。

(2023年 神奈川県公立入試 類似)

1. 台風による強い風の被害を最小限に抑えるため
2. 地震が発生した際の家屋の倒壊を石の重みで食い止めるため
3. 津波が住宅地に浸水してくるのを物理的に遮断するため
4. 冬の時期に吹く冷たい季節風が室内に入るのを防ぐため

問5 日本の国土を大きく分ける七大地方区分において、宮崎県は福岡県や鹿児島県などととも、ある一つの広域的なまとまりの中に分類されています。この宮崎県が属する地方区分名を答えなさい。

(2025年 愛知県公立入試 類似)

1. 九州地方
2. 中国・四国地方
3. 近畿地方
4. 中部地方

問6 九州地方のある県における2019年の農産物産出額の統計では、上位から順に「肉用牛」、「豚」、「ブロイラー（鶏）」、「鶏卵」となっており、上位4品目すべてを畜産関連が占めています。このような特徴を持つ県として最も適切なものを選びなさい。

(2022年 宮城県公立入試 類似)

1. 鹿児島県
2. 宮崎県
3. 熊本県
4. 福岡県

問7 沖縄県の海岸沿いで見られる、潮の満ち引きがある場所に生育する常緑広葉樹の集まりについて、波の衝撃を和らげる「天然の防波堤」としての役割を果たしている植物群の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。

(2023年 神奈川県公立入試 類似)

1. マングローブ
2. サンゴ礁
3. パナナ
4. なつめやし

問8 鹿児島県などの地形図に見られる、標高の低い谷状の土地の利用について述べた文として、正しいものを次の中から選びなさい。

(2020年 群馬県公立入試 類似)

1. 周辺に比べて水が得やすいため、水田として利用されることが多い。
2. 傾斜が急で水の確保が難しいため、主に森林として利用される。
3. 平坦で広大な面積を確保しやすいため、大規模な工業団地が造成される。
4. 土壌の通気性を確保するため、水田ではなく果樹園として利用される。

問9 1970年代の大分県において、県内での雇用を増加させ、大都市圏への人口流出を抑える要因となった政府による都市開発の指定制度を何とといいますか。

(2020年 大分県公立入試 類似)

1. 新産業都市
2. 学術研究都市
3. 高度経済成長拠点
4. 情報公開特区

答え合わせ・解説

問1	答え 1 火山地帯では地下深くに高温の蒸気や熱水が存在するため、これを取り出してタービンを回す発電方式が、再生可能エネルギーの一つとして活用されている。	地熱発電は、火山付近の地下にあるマグマの熱で温められた水蒸気を利用して発電する仕組みであり、二酸化炭素の排出が少ない再生可能エネルギーとして注目されています。阿蘇山のカルデラ内には多くの人々が住み、農業も行われているため「居住が制限されている」という説明は誤りです。また、シラス台地は養分が乏しく水持ちが悪いため、かつては農業に不向きな土地とされていました。北九州工業地帯の発展は、火山地質よりも筑豊炭田の石炭と中国大陸からの鉄鉱石輸送の利便性が主な要因です。
問2	答え 1 きゅうり	宮崎平野では冬の温暖な気候を利用して、きゅうりの栽培が非常に盛んに行われています。選択肢にある「さつまいも」は隣の鹿児島県、「てんさい」は北海道が主な産地として知られています。宮崎県はこのきゅうりなどの生産において、全国でもトップクラスのシェアを誇ります。
問3	答え 1 かつての琉球王国の政治拠点であった首里に近く、古くから港町として発展した歴史を持つ。	那覇市は、琉球王国の王府があった首里の外港として古くから海外貿易などで栄えてきました。1879年の沖縄県設置（琉球処分）の際に県庁が置かれ、現在では那覇空港や那覇港を抱える沖縄の玄関口として、また、県内で最も人口の多い中心都市としての役割を担っています。
問4	答え 1 台風による強い風の被害を最小限に抑えるため	沖縄県は地理的に台風の通り道（台風銀座）にあたり、夏から秋にかけて非常に強い風に見舞われることが多いため、生活を守るための防災上の工夫が発達しました。石垣や防風林は、建物に直接吹き付ける強風を分散させたり和らげたりする役割を果たしています。また、屋根瓦を漆喰で固めるのも、風で瓦が飛ばされないようにするための工夫です。
問5	答え 1 九州地方	日本の七大地方区分（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州）において、宮崎県は九州地方に分類されます。九州地方は九州本島の7県（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）と沖縄県から構成されています。地理的な位置や行政・経済的な結びつきに基づき、このように区分されています。
問6	答え 1 鹿児島県	鹿児島県は九州地方の南部に位置し、広大なシラス台地を利用した畜産業が非常に盛んです。特に肉用牛、豚、ブロイラーの産出額は全国でもトップクラスであり、農業産出額の多くをこれらの畜産品が占めているのが特徴です。選択肢にある宮崎県も畜産業は盛んですが、この統計順位に最も合致するのは鹿児島県です。
問7	答え 1 マングローブ	マングローブは、熱帯や亜熱帯地域の、海水と淡水が混ざり合う汽水域の海岸沿いに発達する植物群落のことです。常に葉をつけている常緑広葉樹であり、その複雑に絡み合った根の構造が、波のエネルギーを吸収・緩和して背後の陸地を守る天然の防波堤として機能しています。
問8	答え 1 周辺に比べて水が得やすいため、水田として利用されることが多い。	低地や谷状の地形は、河川からの取水や周囲からの湧水が得やすく、水利条件が良いのが特徴です。そのため、地図記号においても「水田」を示す記号が描かれることが一般的です。一方で、森林や工業団地などは、排水条件や地盤の安定性、広大な用地確保の観点から別の場所が選ばれる傾向にあります。
問9	答え 1 新産業都市	政府は地方への工業分散を図り、過密・過疎問題を解決するために「新産業都市建設促進法」を制定しました。大分県（大分地区）はこの「新産業都市」の指定を受けたことで工業化が進み、県内での雇用機会が創出されました。この結果、高度経済成長の終わりとともに大都市への人口流出が減少し、地方における人口還流が促進されました。